『社会復帰を目指して』

多久市立東原庠舎中央校　８年　百武（ひゃくたけ）　純玲（すみれ）

皆さんは、出所者の社会復帰についてどう思いますか。私はこの作文を書く前までは、近寄りがたい、いっしょに仕事はしたくないなと思っていました。しかし、出所者の社会復帰について調べていくうちに、出所者に対しての偏見がどんどん変わっていきました。

まず、私は出所者（前科者）の再犯率を調べました。すると、二千二十年の資料に出所者の再犯率が過去最多の四十九・一パーセントと、社会復帰にはほど遠そうな結果となっていました。

そこで、私は社会復帰への対応に何か問題があるのではないかと思い、社会復帰への支援について２つ調べました。

一つ目は、出所者の受け入れ企業数について調べました。これを調べた理由は、出所者の受け入れ企業が少ないと、収入がないので生活ができなくなり、社会復帰が難しくなると思ったからです。二千二十年、昔より３倍にあたる千五百社に受け入れ企業が増加されました。これは世界でも受け入れ企業数が多いフィリピンの約二十分の一で、日本はかなり少ないことが分かります。

このことから、出所者の再犯率が過去最多になった原因は、受け入れ企業数が少ないこともあると考えます。

二つ目は、出所者の社会復帰の支援の具体例です。協力雇用主というもの

を務めている渡辺道代さんは、障害者と健常者が一緒に働ける場がある会社を起業し、両者のキューピット役になりたいと思っていたそうです。ある日、ある女性従業員から「夫が犯罪者で服役しているのですが私はここで働いても構いませんか。」と尋ねられたそうです。そういった出来事を受け、渡辺さんは保護司になり、入所者や出所者に関わる活動をする中で、不幸にして罪を犯した人を「前科者」として特別視する社会の問題に気がついたそうです。

これまで協力雇用主として雇用した人は五十名近くになるそうです。犯罪の種類を問わず初犯の人も再犯の人もいて、働く期間も一カ月から一年くらいまでさまざまで、卒業し院長などになった人もいますが、なかには薬物犯罪を再犯し、再び働きにくる人もいたそうです。しかし、次こそ更生できるよう、出所者が働ける場であり続けることが大切だと渡辺さんは考えています。このように、出所者（前科者）の再犯率が過去最多の四十九・一パーセントだった原因は、出所者の受け入れ企業数の少なさと、出所者の社会復帰の支援があると思っています。協力雇用主や地方自治体や法務省が保護観察中の少年を短期雇用する試みなど、就労をめぐる取り組みは徐々に拡がりつつあります。不幸にして罪を犯した人々が法の裁きを受け、刑に服したら、他の人と等しく尊厳を保障されなければなりません。出所者の不安定な生活状況を改善し、再犯を防ぐための社会の仕組みについて私たちは考える必要があるのではないでしょうか。